



グルノーブル大学での日本語講師受け入れの事例— 文化的・認知的な違いから互いに学ぶこと

東伴子 グルノーブル・アルプ大学 LIDILEM tomoko.higashi@univ-grenoble-alpes.fr
2018年2月5日 東京外国語大学 国際日本研究センター国際日本語教育部門共催共同研究発表会

本発表の流れ

1. グルノーブル大学における日本語教育
2. 外国語講師（レクター）について
3. 事例と内省アンケートから
4. まとめ—互いに学ぶ、変わるために

1. グルノーブル大学における日本語教育
— フランス・ヨーロッパの動向を踏まえて

1.1 Université Grenoble Alpes (UGA)

グルノーブル

フランスの南東に位置する学術都市
つくば市の姉妹都市
グルノーブル・スタンダール大学
2016年に融合

グルノーブル・アルプ大学

学生数 45,000人
23の学部 80の研究所

外国語学部

2500人 8ヶ国語

外国語教育部門

20ヶ国語以上



1.2 フランスにおける日本語教育の現在

外からの視点

- 80年代中頃から90年代にかけて大学の日本語コースが次々開講
- 学習者数は伸び続け、西欧一位 (20,875人)、半数以上は高等教育機関 (国際交流基金「海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査」2016)
- 日本ポップカルチャーの人気の高い (ジャパンエキスポ、マンガ、アニメ)

内からの視点

- 2018年現在、学習者は第2世代に入る
- 幼少時からアニメやビデオゲームと共に育った世代
- 大半は高等教育機関で初めて日本語を「正式に」学ぶ機会を得る



複言語・複文化の観点から
すでに「レパトリリー」となっている
規範的ではない知識、彼らの日本語
歴(マンガ歴……)を考慮する必要性

1.3 「多言語」の枠組みでの日本語教育 — 高等教育の場合

大学

- バカロレア取得者は基本的に試験なしに進学
- ボローニャ・プロセスによるLMDが定着
グランゼコール
- より高度な専門知識を学ぶ機関
- 2年間の準備クラスの後入学試験。3年のコース終了後はマスターに対応

高等機関で学生として日本語を学ぶには

- 大学の文学部・外国語学部で
 - 1.LLCER(外国語・地方語、文学、文化コース)
 - 2.LEA(外国語応用コース) 言語A,言語B,社会科学系科目
- 大学、またはグランゼコールで
 - 3.選択科目として(LANSAD)

- 中等教育における日本語クラスは非常に少ないため、大学で日本語を始める人が多い。

「昔から日本語を習いたかったが
やっと夢がかなった」

- 最近では、インターネットなどを通し、予備知識を持つ「純粹の初心者でない学生 (faux débutant)」も増えている

LANSAD (Langues pour les spécialistes d'autres disciplines) 他の科目を専攻する学習者。非専門家(ノンスペシャリスト)のマイナスイメージに対して、90年代から使われるようになった用語。

1.4 グルノーブル大学の日本語コースの経緯・現状

1986年日本語コース開設（客員教授）

90年代 専任ポスト設立・LEA
コース開設

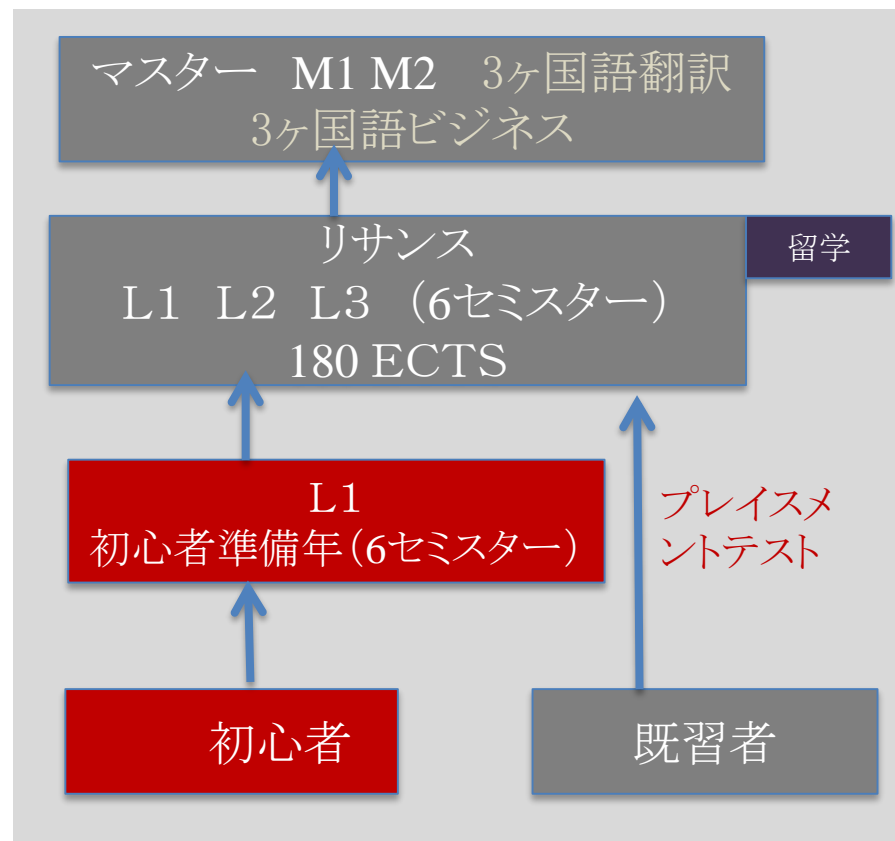
2004年から L 1 Débutant（初心者準備年）

登録人数 (2017_18)

L 1 Débutant 約130人

L1 約100人, L2 約60人, L3 25人（うち約20人留学中） M1 ...4人, M2...6人

非専攻の選択クラス(A1-B2)：約300人



1.5 日本語科、日本語コース (リサンス)

* 赤字は主にレクター担当

L1初心者コース

集中講座(学年初め・学年末)
文法・翻訳
口頭・筆記コミュニケーション
漢字
ラボ

L1

文法・翻訳
口頭・筆記コミュニケーション
文化
表現・理解のテクニック、翻訳

L2

文法・翻訳
口頭・筆記コミュニケーション
文化
表現・理解のテクニック、翻訳

L3

文法・翻訳
口頭・筆記コミュニケーション
文化
専門翻訳入門・専門言語

専攻以外

A1 (9), A21 (3), A22, B11, B12-2

2. 外国語講師（レクター）について



2.1 日本語科の教員構成 (2017_18)

Maître de conférences 准教授 3名 (1名出向中 代理
に attaché temporaire d'enseignement et de recherche
教育研究補助員 1名)

Enseignant contractuel 契約教師 1名

Lecteur レクチャー (1年契約・一回更新可) 4名

Vacataire 非常勤 (1コマ担当) 3名 (年により変動)

2.2. 外国語講師(レクター)の雇用条件

1. 応募する外国語が母語、または母語と同じように使える人
2. 外国語のレクターのポストに応募する人は(フランスの)メートリズ(修士1年)かそれに相当する外国の免状を持っていること
3. 外国語のメートル・ド・ラングのポストに応募するひとは、外国の博士課程の1年目修了か、フランスの第三課程の1年目終了(マスター終了)したこと

Décret n°87-754 du 14 septembre 1987に準じる

その他の条件・希望は各日本語科が追加する

例→ 当ポストに関する希望条件:
日本語教育学専攻者、日本語教育経験者
日本語教育に熱意を持ち、協調性のある意欲的な方
ITと教育リソースの利用ノウハウ、CEFRの基礎的な理念と知識

2.3.1 これまでの受け入れレクター — 人数とプロフィール

ポスト数

2004-5～2009-10 : 2

2010-11 ~ 2017-18 : 4

のべ44人

契約期間1年更新一回可能→ほとんどの人が2年勤務するため 実質 26人

レクターのプロフィール (専攻、修士課程)

日本の大学院の日本語教育研究科 (修士課程休学中、卒業)	10人
日本の大学院で言語学専攻 (修士課程休学中)	2人
日本の大学院でフランス文学・美術史など専攻 (卒業)	4人
フランス(ヨーロッパ)の大学院の言語教育学・応用言語学修了	5人
日本語教育経験者(日本語学校、留学生センター、基金派遣)	5人
計	26人

2.3.2 グルノーブル大学日本語科の レクターの特徴・共通点

- 教師研修以外、日本語教授経験がない人がいる。
- 経験は、個人レッスンや少人数クラスがほとんど。または海外(アジア、ヨーロッパ)の中等教育での経験。
- フランスの大学での正規の授業経験はない。
- 日本語教育に関心があり、日本語教育学専攻以外でも『日本語教師養成コース』などの修了者が多い。

2.3.3 レクターの担当授業 一例

A	B	C
スタージュ集中講座 24	スタージュ集中講座 24	スタージュ集中講座 12
L1 初心者 漢字 64	L1 言語実践習 96	L1 初心者漢字 96
L1 漢字強化 48	L1 読解 24	L1 表現と理解 96
L2 言語実践 48	Lansad (A1, A21) 96	L3 言語実践 48
L1 表現強化 24	(240*)	Lansad A21 48
LANSAD (A1) 48		(300*)
(256*)		

*年間授業時間

その他 « journée du lycéen » オープンキャンパスで日本語模擬授業

初級レベル(初心者。1年生)が多い。

『漢字』(BK500)、コミュニケーション能力(口頭、筆記)を育てる目的のクラス中心。

規定勤務時間 年間200時間(演習) 超過分は別枠で支払われる

3. 事例と内省アンケートから



3.1.1 内省アンケート 質問例 対象:7名

II. 着任前／着任後

フランスに来る前に抱いていたイメージと、着任後の実態とを比べてどのような違いがありましたか。

II-1仕事の形態・内容について

II-2.学生について

II-3.フランスの大学環境、教育制度について

III. 日本語教育

授業の準備(教案、タスク作成)、授業・クラス運営、オンラインツール、評価(筆記試験、口頭試験作成、評価基準)、連携の5点においてご自分の実践を振り返ってみてください。

3.2 講師のタスクとその取り組みの変化

着任後すぐに行わなければならない作業

1. プランを立てる作業・・・学期の流れ、教材・素材探し

2. 教室で授業を行う作業・・・アクティビティ、学生との距離

3. 評価する作業・・・試験作成、評価法、口頭試験の評価法

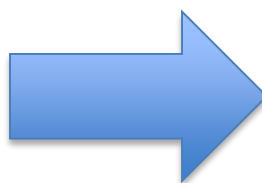
予備知識・前任者の資料

1年後、2年後

困難感減少

自分のやりかたを獲得
→ 自立

気づき



同僚とのやりとり
学生の反応

問題点・違い・
驚き・失敗・成
功から互いに
学ぶ

3.3.1 グルノーブル大学日本語科の方針と それに関連して講師に求められること

1 自分で考えて授業を作る

担当する授業の役割と目標を理解し、それに適した素材、アクティビティを探す、一学期間のプランを立てる

2 コミュニカティブ・行動中心アプローチ

言語知識は社会で行動するためのリソースと考え、学習者主体の授業を考える

3 CEFRに準じたレベル設定

CEFRの尺度にもとづいて、学年の到達目標と学生の熟達度が判断できる

3.3.2 『自分で考えて授業をつくる』から

自由・任されていることの難しさ

コメント1

授業内容について教師が決められる自由度が高いことに驚きました。責任の重さも感じましたが研修生のような学生にとってはいい経験と勉強になるのではと思います。教育機関によってはシラバスがかなり細かく決められており、教師はそれに沿って色々なことを「しなければならない」と思い込んでしまっていることが多いと思います。自分が、固定観念にとらわれ過ぎてしまっていたことにこの大学で勤務してから気づきました。

コメント2

仕事の内容は、想像していたより自由でした。授業内容についての細かな決まり事が少なく、担当者の自由度が高かったです。大学では、授業計画や評価など資料が、きちんと文書化・整理されていたので役立ちました。

3.3.3 『コミュニケーション・行動中心アプローチ重視』から

学生が興味を持つ、楽しむタスクを考えることの難しさ

コメント 3

学生に興味をもってもらうような素材を探すのに苦労しました。2時間の授業をするのに、準備に6時間程度かけていたと思います。最初は、オリジナルの教案をつくることばかり考えていましたが、最近では、前任者の資料や既存の教材もうまくつかって、以前より効率的にできるようになってきたと思います。

コメント4

着任時は特に教師経験も浅く、引き出しもなかったため、どうしたら**学生が楽しめるタスク**ができるかを毎度悩んでいました。

3.3.4 『CEFRに準じたレベル設定』から

学生のレベルを正しく理解することの難しさ

コメント5

初年度は、**学生のレベルが具体的に把握できず**、授業をしながらの手探り状態だったので教材等を準備する時は悩むことが多々ありました。

コメント6

1年目は**難易度がうまく調整できず**、**学生が混乱したまま授業が終わることも度々ありました。**

一般によく使われている教科書〇〇の△課終了という基準ではない

→タスク・素材の選択には学習者のニーズ・興味 と レベルの整合性が必要

3.4.1 変化へ向けて(1)

1年目は 前例に従う。2年目はオリジナリティを生かす

コメント7

初年度は前任者のたてたスケジュールや資料をもとにプランニング作成をしました。前任者が残してくれた資料がないと、これまでの職場とは1週間の流れなどかなり違いましたので、プランニング作りにはより苦労しただろうと思います。

2年目は1年目の経験がありますので、自分なりに授業内でやりたいことを色々と盛り込んでプランを作ることができました。

→ 自立した教師・考える教師へ

3.4.2 変化へ向けて(2).

非漢字圏の学生に接して

コメント8

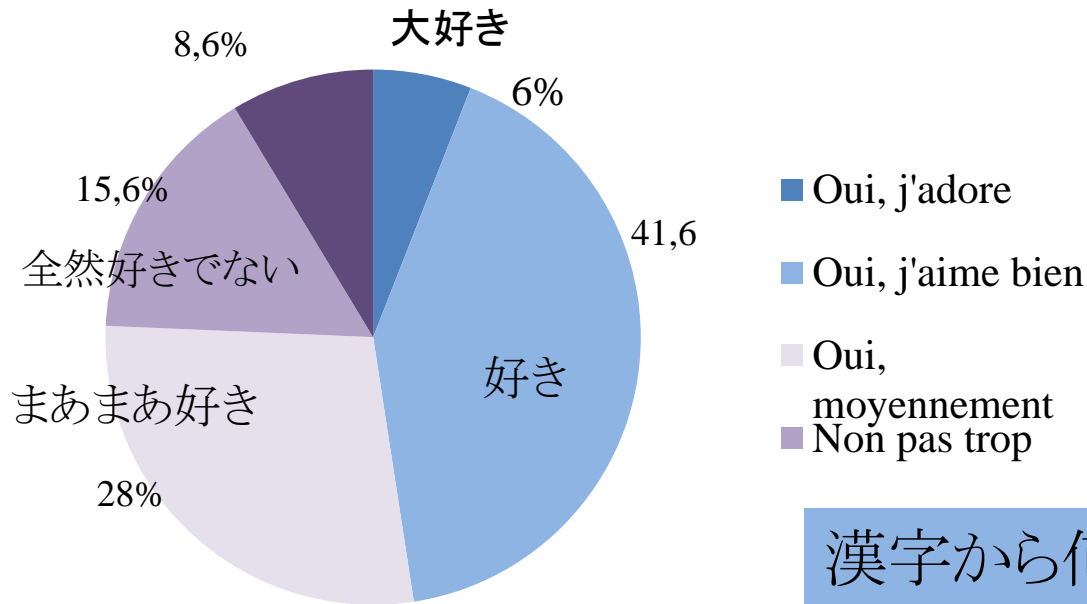
フランスに来るまでの自分の環境には、中国人が多かったため、あまり気付かなかったのですが、**非漢字圏の学生が、漢字という大きな壁があること**、また、それに関係するのかわかりませんが、全体的にもあまり日本語を話せないということを感じました。

コメント9

日本語に4つの表記(ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット)があることを伝えたときに、学生たちが私の予想以上に驚いていました。**特に、ヨーロッパの学生にとって、漢字はすごく難しいものなのだと感じました。1つの漢字に、複数の読み方や意味があることに、戸惑っている印象をうけました。**

→フランスの学生の認知的特徴に気づく (漢字の場合)

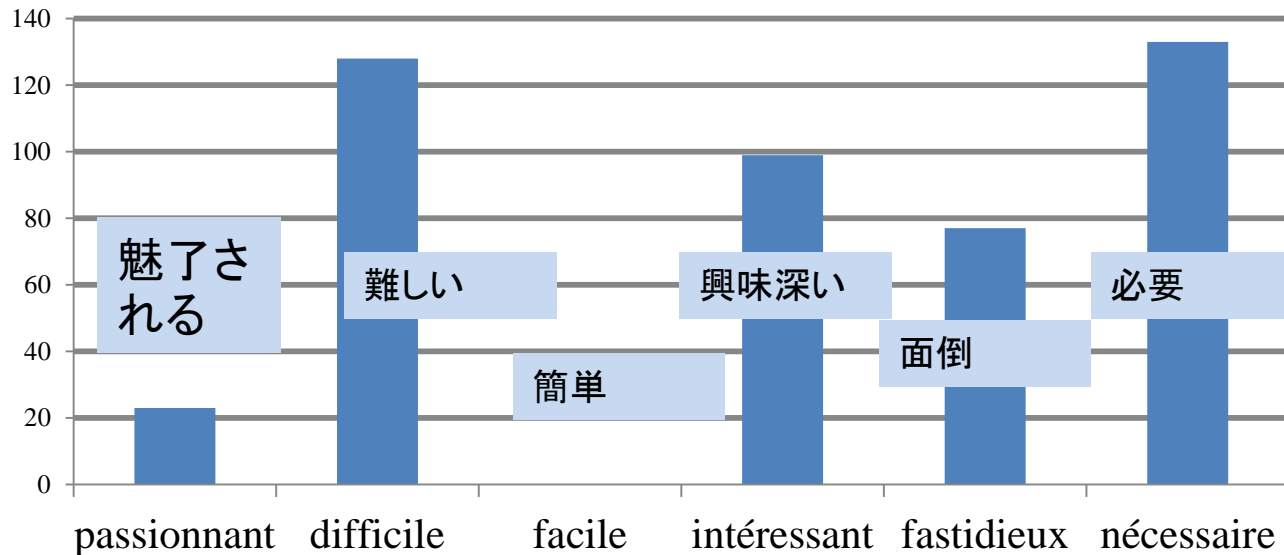
漢字に関するアンケート 一例



LEA (外国語応用課程) L1 初心者課程、L1 の学生185人対象
2016年実施

漢字は好きですか

漢字から何をイメージしますか



3.4.3 変化へ向けて(3)

漢字学習のモチベーションを高める

コメント 10

漢字については、1年目は練習問題をたくさん作って演習時間を多くとりましたが、2年目の学生は取り組みがゆっくりだったこと、漢字がどうしても苦手な学生もいて、2時間練習ばかりだと苦痛らしいということを感じ、途中から漢字を使ったゲームなどを行うようになりました。どうしたら学生たちが少しでも前向きな気持ちで取り組んでくれるか、という点を考えるようになったと思います。

コメント11

また、漢字を一度覚えると、他の単語も覚えやすくなったり、文章が短くできたりする等、メリットも伝えて、漢字を好きになってもらうようにしました。

→ 学習者の反応から自分のアプローチを変える

3.4.4 変化へ向けて(4)

歴史的説明を通して興味を持たせるアプローチ

コメント12

意外だったのは、漢字が苦手と言いながら、歴史やストーリーを交えて説明したら興味を持って耳を傾けることです。

コメント13

一例ですが、漢字で「電車の上り・下り」が理解しづらかったようです。日本の駅構内の地図や看板を見せて、上り・下りを読ませたのですが、(・・)“?”という感じでした。他の漢字でつまずいた時もそうですが、たいてい**歴史的背景を説明するとわかってもらえるので特別な取り組みというよりも、ひとつひとつ丁寧にやっていくようにしています。**(例:東京に行くことを日本語では「上京する」という。東京と上京の漢字を説明して、この漢字の意味は…昔は…とさらに説明等。)

→ フランスの大学生の認知的傾向に気づく

3.5.1 内省 『うまくいった活動』1

コメント14

一番うまくいったと思う活動は(…)ブログで作文を投稿してもらおうという活動です。「私の今年の一皿」と「私のレシピ」というテーマで2回行いました。「私の今年の一皿」はクリスマス休暇の宿題として行ったもので、NHKのNEWS WEB EASYからの記事を基に読解問題を作成し、その記事に沿ったテーマで今年食べたもので一番おいしかったものを「私の今年の一皿」(…)。上手くいったと思う点は、**熱心に取り組んでくれる学生が予想より多かったこと**、そして、**ブログのコメント欄で学生同士、教師と学生のやり取りが生まれたこと**です。

コメント15

L1の作文です。毎回テーマを設け、ブレインストーミングの時間を取り、書く作業自体は時間制限を設けず(書き終わらなければ家で書いてくる)ようにしました。はじめはあまり長く書けなかった学生も、**最終的にはそれなりにまとまった量を書くようになり**ましたし、**文章表現も成長が見られたように感じます**。それぞれの学生が、**それぞれのペースで上達したと感じました**。何名か、書きたいことは多々あるものの選択する文型や語彙に問題が多かった学生が、やり取りをするうちに**かなり改善された**ので、その学生たちにはよかったのではないかと思っています。

自己表現・書く活動 根拠 :熱心に参加、上達

3.5.2 内省 『うまくいった活動』 2

コメント16

その日習った表現を使って、できるだけ多くの人にインタビューして答えてもらうという活動なのですが、相手の名前、質問文、答えが書き込めるプリントを用意しておいて、インタビューしながら、書き込んでもらうというものです。大人数だからこそ盛り上がる活動かなと思います。(・・・)この活動が比較的うまくいっている(と感じる)のは、学生に聞きたいと思っていることを聞かせていることと、できる学生も、できない学生もそれぞれ自分のペースでがんばれるからでしょうか。

コメント17

学生の反応や興味を注意深く観察して、学生たちの発言から、いろいろな話題に発展させることができたときは、クラスが活気づいて、いい雰囲気になりました。

コメント18

思ったより良かったと思える活動を色々と振り返ってみると、その活動は、活動が複雑ではなく、指示もクリアであること、またそのクラスの学生の特性に合っていて学生達も興味もてる活動だったと思います。特に、インターアクションが活発に起こりやすく、レベルの低い学生もそれなりに参加できるものはうまくいくと思います。

→自発的なインターアクションのある活動 根拠:教室が活気付く

3.5.3 『うまくいかなかった活動』

コメント19

反省点がある活動は多々あるのですが、最後までうまくこなせなかったと思うのは(…)
読解クラスでの読む活動です。前任の先生にお話を聞きながら、シラバスを作成し、毎
度学生の興味に合わせて様々な読解教材を選んだのですが、教材も内容もまとまりが
なく、学生にもただ難易度の高い課題を要求する形でコースを終えてしまったと感じま
す。授業中、学生の集中力が続かなかったり、課題が難しくて時間内に終わられな
かったりという場面も多々ありました。

→素材の『興味』と難易度の不適合

→達成感のある活動と結びつけにくい

コメント20

1年目9月(…)、学生同士で「立ってください」「右手をふってください」等の指示を出し合
うゲームをしたところ、全く盛り上がりませんでした。これまでの経験ではいつも盛り上
がったので意外でした。様々な理由が考えられますが、内容が単純すぎた点、人数が
多かった点、クラスメイト同士が思う程知り合っておらず恥ずかしかった点等が原因
だったと思います。 →幼稚な活動との認識？

4.1 日本語以外の問題への対応：行動、価値観、文化

コメント21

文化的差異が学習の妨げにならないように、差異を認識してそれに理解を示すことができるように持っていくことができればと思いますながら授業をしています。フランスの学生は、大抵のことはきちんと説明をすれば分かろうとしてくれるので、できるだけ納得できる理由を説明します。

コメント22

1学期に1～2回スキット発表を行っていたのですが、そのスクリプトの中にブラックジョークのようなものが含まれていて指導に迷いました。スクリプトを作成したのはいつも真面目に授業に取り組む学生のグループで、スクリプトを面白く作ろうとしているだけのようだったので、私が指摘した際も初めは何がいけなかったのかよくわからないようでした。その学生たちには、冗談の対象になるような人(該当の国の人)が発表を聞いたらどう思うかを考えてもらい、スクリプトの内容を変更してもらいました。学生たちは理解をし、すぐに変更してくれました。

→コミュニケーションを通じて解決 話せばわかる

4.2.1 言語教育観は変わったか 1

コメント24

言語教育が何であるのかを改めて真剣に考えた1年半でした。授業ではつい、これもやらせなきゃ、あれもしなきゃ、これができない、あれもできない、時間がない、いい授業をしたいのに何故？等と考え込んでしまうのですが、それはほとんど教師のひとりよがり、言語学習を通して学べることは言語以外に色々あり、さらに学生が先輩や留学生の手を借りて宿題をしているのを見ると、授業以外のもっと大きなくくりで教師という役割を考えなくてはと思いました。

コメント25

「教える」ということに執着しすぎて、自分がかんばらなければと思っていましたが、そうではなく、学生と一緒に授業を作るように、あくまで学生にどれだけ話したいと思って話させるかを考えるべきだと思えるようになった点は変わったことかなと思います。

教えるのは教室だけではない、自分だけではない → 教師の役割再考

4.2.2 言語教育観は変わったか 2

コメント26

ヨーロッパという環境で日本語の授業はおそらく一番日本語に触れることのできる場だと思います。そこで「日本語を使う」ということを教えるにはどうしたらいいかについて悩む中で、**コミュニケーションの意味**を考えるようになったのだと感じています。ヨーロッパで日本語を教える意味はなにか、を考える時間が多くありました。

コメント27

私個人として、外国語学習は異文化理解であり他者理解であり、**異なる文化の人とコミュニケーションできる、ということに価値を感じるのだと、はっきり意識したのがレクターを経て変わったことです。**

**日本語を教えるのはコミュニケーションのため
→複文化・複言語的認識へ**

4.3.1 まとめ 1 互いに学ぶ、変わるために 学生とのコミュニケーション

学生インタビュー(L
2)から

- 文化面のメリット
- 言語面では

『いつも日本語で話してくれるのでこちらも日本語を使うように努力しやすい』

『フランス語をあまり話さないなので質問やコミュニケーションができない』

『日本語で話す自信がない』

コメント27

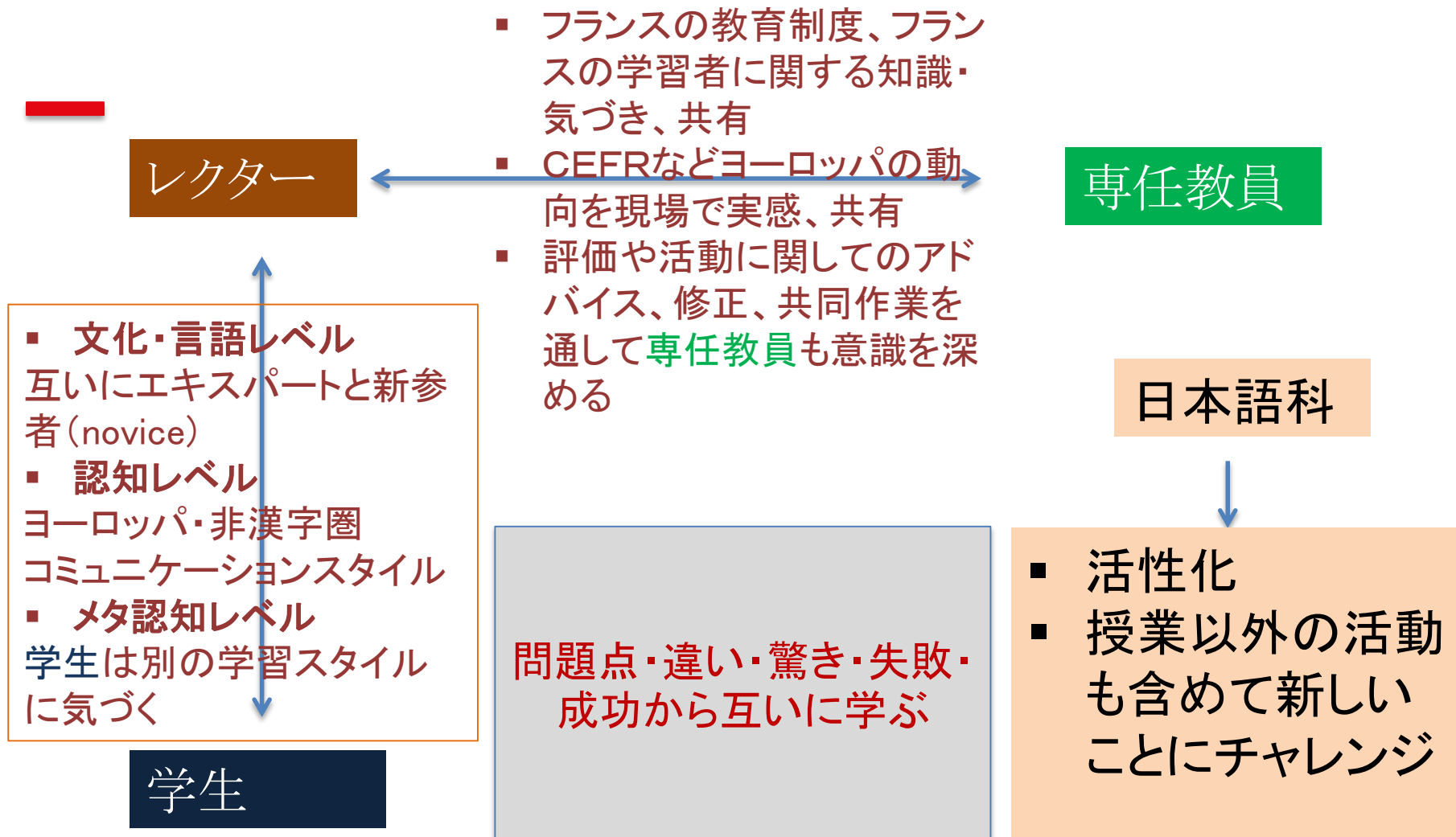
日本語が上手な学生でも質問や雑談などをフランス語でしようとする学生が多いように感じました。「今の会話は日本語でできたのではないかな?」と感ずることも、フランス語(ないし英語)でしてくる学生がやや多いように感じます(…)。せつかくのネイティブ教師なので、できる限りは日本語で話したいと思っていますので、基本的に私は日本語を使うようにしていました。

コメント28

授業中は基本日本語で話します。ただ、説明や指示時は必要に応じてフランス語を使います。私もフランス語は勉強中ですが頑張って話すので、みなさんも日本語を恥ずかしがらずにどんどん話して下さいと言ったら積極的に話すようになりました。

学生に気づかせる

4.3.2 まとめ2: 互いに学び、変わるために



4.3.3 まとめ3 今後の展望

日本語教師養成への興味とニーズの高まり

レクター

教員として採用するため、授業を任せられ即効力が求められる。この機関の日本語教育のために来るので時間をかけて準備できる。

日本語教育課程(修士)終了生など、専門性と向上心のあるレクターは、専任教員や他の教員にアドバイスを求め、互いに刺激になる。

インターン

当校では前例がないが、インターンシップ契約書を大学間で結ぶことにより可能。ただ短期の研修の効果とそれにかかる労力を比較し考慮する必要がある。

交換留学生

近年、在学中日本語教育に関心を持ち、交換留学中に、授業ビジター、アシスタント、『会話アトリエ』などに積極的に参加する提携校の学生がいる。

交換留学中に、日本語科の学生と交流をし、その後日本語教育の道に進む人もいる。



謝辞

このような発表の機会を与えてくださった谷口龍子先生に感謝の意を表します。今までの講師の受け入れについてのふりかえりを行い、今後に結びつけるよい機会となりました。

また、内省アンケートにご協力くださった講師の方々、貴重なコメントをありがとうございました。

